

授業概要

専門演習で得た知見を活かし、自分の興味を持った分野で卒業論文のテーマを設定し、先行研究等を精査しながらバックグラウンドクエスチョンに対する答えを明確にし、具体的なリサーチクエスチョンに基づいた研究計画を立案する。その後、研究目的に沿った作業仮説を設定し、科学的方法論を用いた独自調査通じた仮説検証を通じて、具体的なエビデンスをベースした立論を行い、質の高い卒業論文作成を目指す。

研究計画や調査結果の発表は輪番制を取り、自分とは異なるテーマや方法論を選んだゼミ生同士がディスカッションを行うことで、新たな視点で研究を見直し、グループダイナミズムに基づく洞察を得ることを企図する。

授業計画

第 1 回	卒業論文のテーマ発表	第 16 回	本調査①
第 2 回	研究計画の作成①	第 17 回	本調査②
第 3 回	研究計画の作成②	第 18 回	本調査③
第 4 回	研究計画の作成③	第 19 回	本調査結果の分析と考察①
第 5 回	研究計画の発表と文献レビュー①	第 20 回	本調査結果の分析と考察②
第 6 回	研究計画の発表と文献レビュー②	第 21 回	本調査結果の分析と考察③
第 7 回	研究計画の発表と文献レビュー③	第 22 回	卒業論文作成の経過発表①
第 8 回	論文構成とスケジュールの確認①	第 23 回	卒業論文作成の経過発表②
第 9 回	論文構成とスケジュールの確認②	第 24 回	卒業論文作成の経過発表③
第 10 回	論文構成とスケジュールの確認③	第 25 回	卒業論文作成の経過発表④
第 11 回	調査方法と対象の検討①	第 26 回	卒業論文作成第一稿の提出
第 12 回	調査方法と対象の検討②	第 27 回	修正箇所の検討①
第 13 回	プレ調査①	第 28 回	修正箇所の検討②
第 14 回	プレ調査②	第 29 回	修正箇所の検討③
第 15 回	プレ調査結果発表	第 30 回	卒業論文最終提出

到達目標

- ・先行研究を精査した上で妥当性の高い仮説に基づいた研究計画が立案できる。
- ・独自調査を行った上で科学的な根拠に基づいた仮説の検証と考察ができる。
- ・学位取得に十分な水準の卒業論文が作成できる。

履修上の注意

自身の発表週においては十分な準備を行った上で臨むこと。
他のゼミ生の発表においても、ディスカッション等に積極的に参画すること。
卒業論文第一稿、卒業論文要旨、卒業論文最終稿の提出については締め切りを厳守すること。

予習・復習

発表の前の予習として先行研究等を読み込み、授業時間内でディスカッションすべき点を明確にすること。
発表後の復習として、授業内で見出した課題について一定の応えを見出し、研究計画や論文に反映させること。

評価方法

授業内でのディスカッションへの参画のあり方(20%)、卒業論文(80%)

テキスト

特に定めない

授業概要

一人ひとりの学生が関心を持つ保育内容（健康）や運動、体育を中心としたテーマについて、先行研究を調べ、問題意識を深めていけるよう指導する。実際に論文を作成する際は、論文テーマに基づいたデータを収集、分析し、その結果に基づいて考察を行っていく。これら具体的な活動を通して、卒業論文を執筆する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	データ分析①
第 2 回	研究テーマの選び方①	第 17 回	データ分析②
第 3 回	研究テーマの選び方②	第 18 回	データ分析③
第 4 回	研究テーマの決定①	第 19 回	データ分析④
第 5 回	研究テーマの決定②	第 20 回	論文執筆（はじめに）①
第 6 回	研究テーマに沿った参考文献を探す①	第 21 回	論文執筆（はじめに）②
第 7 回	研究テーマに沿った参考文献を探す②	第 22 回	論文執筆（方法）
第 8 回	参考文献の報告①	第 23 回	論文執筆（結果）①
第 9 回	参考文献の報告②	第 24 回	論文執筆（結果）②
第 10 回	研究デザインの検討	第 25 回	論文執筆（考察）①
第 11 回	研究テーマに沿ったデータ収集①	第 26 回	論文執筆（考察）②
第 12 回	研究テーマに沿ったデータ収集②	第 27 回	論文執筆（まとめ）
第 13 回	研究テーマに沿ったデータ収集③	第 28 回	論文執筆（参考文献）
第 14 回	研究テーマに沿ったデータ収集④	第 29 回	研究結果発表の準備
第 15 回	まとめ	第 30 回	研究結果の発表

到達目標

- ・卒業論文のテーマに基づいて、データを収集、分析、考察することができる。
- ・卒業論文の執筆を通して、論文の作成方法を身につけることができる。

履修上の注意

基本的に幼稚園、保育園や小学校でアンケート調査を実施します。
パソコンを用いて、分析、検討を行います。

※コロナの流行状況によりますが、ゼミ合宿や保育所での学外研修を行うことがあります。
実施することになれば、日程を調整しますので、必ず参加してください。
また、費用がかかりますので、準備をしてください。

予習・復習

- ・インターネットを活用しながら論文作成に必要な資料を収集する。
- ・執筆した論文を推敲し、適正な表現方法を検討する。

評価方法

卒業論文の構成・内容（90%）及び卒業論文発表会での発表内容（10%）を総合的に評価する。

テキスト

特に、指定しない。

授業概要

家族社会学、ジェンダー学にかかわる領域に研究関心をもつ学生を対象に、学生自らが問題意識を高め、研究テーマを明確にし、卒業論文を作成できるよう指導する。専門演習での学びをもとに、資料検索の方法や文献の引用・出典明記のルールを再度確認するとともに、調査を実施する学生には調査方法や調査倫理、データ分析の方法について等、それぞれの研究に必要な事項について指導する。後期は毎週、各自が進捗状況について報告をし、執筆した部分に対してゼミ生同士で質問やコメントをしあう。互いに協力し励まし合いながら論文の完成を目指す。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	夏休みの進捗状況について各自報告
第2回	論文作成のための基礎的事項の確認	第17回	執筆部分について各自報告、議論
第3回	研究スケジュールの作成	第18回	執筆部分について各自報告、議論
第4回	「問題関心」と研究テーマの明確化	第19回	執筆部分について各自報告、議論
第5回	「問い」と「仮説」の検討	第20回	執筆部分について各自報告、議論
第6回	「研究の目的」と「研究方法」の検討	第21回	執筆部分について各自報告、議論
第7回	参考文献リストの作成	第22回	執筆部分について各自報告、議論
第8回	先行研究レビュー①基礎的文献	第23回	執筆部分について各自報告、議論
第9回	先行研究レビュー②ジャーナル論文	第24回	執筆部分について各自報告、議論
第10回	先行研究レビュー③統計調査	第25回	執筆部分について各自報告、議論
第11回	「問い」と「仮説」の再検討	第26回	執筆部分について各自報告、議論
第12回	「研究の目的」と「研究方法」の確定	第27回	執筆部分について各自報告、議論
第13回	目次の作成	第28回	執筆部分について各自報告、議論
第14回	「はじめに」を執筆	第29回	執筆部分について各自報告、議論
第15回	論文執筆を開始する	第30回	卒論完成原稿提出（ゼミ内報告会）
		第31回	学科の卒論報告会の準備

到達目標

1. 自らの問題関心にもとづき、研究テーマを明確にできる。
2. 文献の引用・出典明記のルールや調査倫理を遵守できる。
3. 卒業論文を完成させ、報告会での報告ができる。

履修上の注意

1 年間、卒業論文作成に真摯に向き合う態度を求める。

予習・復習

授業は報告が中心となる。論文執筆は、授業時間以外に、個々人が自覚をもってすすめること。

評価方法

ゼミでの報告を含めた卒業論文への取り組み（30%）と卒業論文の内容（70%）で総合的に評価する。

テキスト

特に指定しない。各自の研究テーマに応じて、参考文献、必要文献は指導する。

授業概要

前年度の専門演習において学び獲得してきた卒業論文作成に必要な基礎的知識とスキルを応用させ、各自の設定した卒業論文のテーマに基づき研究計画を立案し遂行できるように指導する。

本演習の前半は、理科教育・環境教育に係わる卒業論文を作成するための計画立案、既往文献調査を通じて自身の研究の方向づけができるようにする。

後半は、研究目的、研究方法を明確にして実験・観察・調査等を行って卒業論文を執筆し、その成果を対外的に示すための表現力を身につけることができるようにする。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回～ 第 17 回	研究目的の検討と発表
第 2 回	卒業論文の書き方	第 18 回～ 第 19 回	研究方法の検討と発表
第 3 回～ 第 5 回	テーマの決め方、テーマ決定	第 20 回～ 第 21 回	実験・観察・調査 ※学外活動を含む
第 6 回～ 第 8 回	研究の進め方、計画立案	第 22 回～ 第 23 回	データの分析と解釈
第 9 回～ 第 10 回	文献検索の方法	第 24 回～ 第 25 回	経過報告
第 11 回～ 第 12 回	文献の読み方	第 26 回～ 第 28 回	卒業論文の執筆
第 13 回～ 第 14 回	テーマの見直し	第 29 回	卒業論文発表会の準備
第 15 回	構想発表	第 30 回	卒業論文発表会

到達目標

1. 理科教育や環境教育に係わる卒業論文のテーマにふさわしい観察・実験及び調査の計画を立てることができる。
2. 観察・実験及び調査などを計画に従って実施し、結果を卒業論文としてまとめ、発表することができる。

履修上の注意

授業を土日に振り替えて、社会教育施設や小中学校の授業観察、野外観察などに行く予定である。したがって、指定した校外学習日に必ず出席すること。

個人発表の機会が多くなるので、欠席しないことが前提になる。遅刻 3 回で欠席 1 回として扱う。また、20 分以上の遅刻は欠席として扱う。

予習復習

本演習を履修し、卒業論文の単位を修得するには、プレゼンテーションや個人レポート作成のために授業以外の自主学習（予習）が必要となる。また、授業内で得た知識を復習することも必要となる。

評価方法

授業中の態度や参加状況（20%）、プレゼンテーションへの取り組みと発表（20%）、卒業論文（60%）によって総合的に判断する。

卒業論文提出に至るまでの自身のプレゼンテーションを無断で欠席した場合は評価の対象とはしないので十分注意すること。

テキスト

適宜印刷資料を配付する。

授業概要

各自の研究テーマについて、実際に調査研究を行い、卒業論文を執筆する。

卒業論文の作成をとおして、研究テーマに関する理解を深めるとともに、課題に対して仮説を立て検証する力、資料を正しく読み取る力、データを分析し情報を引き出す力、それらの結果をもとに考察する力、研究の成果を発表する力を身につくように指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	問題と目的の作成1（研究の背景）	第17回	調査データの整理1（データの確認）
第3回	問題と目的の作成2（研究の目的）	第18回	調査データの整理2（クレンジング）
第4回	問題と目的の作成3（研究の仮説）	第19回	調査データの整理3（傾向の確認）
第5回	調査資料の作成1（調査タイプの把握）	第20回	統計解析の学習1（単純集計）
第6回	調査資料の作成2（調査項目の洗出し）	第21回	統計解析の学習2（クロス集計）
第7回	調査資料の作成3（調査項目の選定）	第22回	統計解析の学習3（差の検定）
第8回	調査資料の作成4（調査項目の見直し）	第23回	結果の作成1（主な結果の記述）
第9回	予備調査と調査資料の見直し1	第24回	結果の作成2（検定結果の記述）
第10回	予備調査と調査資料の見直し2	第25回	結果の作成3（図表の記述）
第11回	データ収集1	第26回	考察の作成1（仮説に対する考察）
第12回	データ収集2	第27回	考察の作成2（その他の結果の考察）
第13回	データ収集3	第28回	考察の作成3（今後の課題の記述）
第14回	春期のまとめ	第29回	卒論発表予行演習1
第15回	休み期間中の作業内容の確認	第30回	卒論発表予行演習2
		第31回	卒業論文提出

到達目標

- ・興味・関心のある事柄に関する文献や資料を批判的に読むことができる。
- ・興味・関心のある事柄について、自ら課題を見つけ、解決の手立てを考えることができる。
- ・興味・関心のある事柄に関する自らの考えを、論理的に説明することができる。

履修上の注意

- ・卒業論文は時間をかけて積み重ねつつ作成するため、安易に欠席しないこと。
- ・授業に主体的に参加するとともに、他者の発表も興味・関心を持つこと。
- ・剽窃、論文代行、データ改ざん・捏造など研究不正は絶対にしないこと。

予習・復習

授業内容の特性上、発表資料や調査資料の作成、データ収集・分析、卒業論文執筆等があるため、授業時間外で取り組むことが多い。

評価方法

授業態度（50%）、卒業論文の内容（50%）で評価します。なお、研究不正が発覚した場合は、不可となります。

テキスト

特になし。

授業概要

前年度の専門演習では、造形表現の発達段階と特性を理解するとともに、子どもの造形活動の指導・支援に必要な基礎的知識と技能を幅広く身に付けることを目指し、学内外で実際の子どもたちを対象とした造形活動を体験した。この演習では「卒業研究」と「卒業論文」のどちらかを選択して研究を進めていく。子どもの豊かな表現を促すために、保育・教育の造形指導者として、子どもの要求にふさわしい援助を与えるための指導の研究を理論と実践を通して学ぶ。幅広い材料体験を通して実践的に学び、表現の楽しさを自身が味わっていく。

授業計画

第 1 回	春期授業の概要説明	第 16 回	秋期授業の概要説明
第 2 回	各自の研究テーマ構想の報告	第 17 回	制作スケジュールの確認と発表準備
第 3 回	先行研究を検討：研究テーマ設定	第 18 回	中間報告会発表準備：プレゼン準備
第 4 回	乳幼児期からの描画の発達段階（平面）	第 19 回	中間報告会の発表：学園祭を活用
第 5 回	①描画材の研究：静物画を描く	第 20 回	材料研究・問題意識の再確認
第 6 回	②水彩画の研究：混色とグラデーション	第 21 回	材料研究・目的と考察について
第 7 回	造形の発達段階と材料体験について（立体）	第 22 回	テーマについて、追加の必要事項確認
第 8 回	①自然素材を活用したオブジェ制作	第 23 回	参考となった資料・文献検索について
第 9 回	②親子を対象とした造形ワークショップ	第 24 回	情報収集・整理・計画と制作進行
第 10 回	材料体験と各自の研究の確認	第 25 回	口頭発表するために発表要旨準備
第 11 回	幼・保・小学校の連携と総合的な活動	第 26 回	全体進捗状況の確認と制作進行
第 12 回	①ICT を活用した鑑賞教育について	第 27 回	要旨作成と研究作品写真撮影
第 13 回	②スマホ・タブレットを活用した名画鑑賞	第 28 回	卒業研究・卒業論文要旨作成
第 14 回	各自の研究の確認 問題意識の明確化	第 29 回	卒業研究・卒業論文の完成
第 15 回	課題研究：レポート作成について	第 30 回	卒業研究・論文の発表会リハーサル
		第 31 回	2 月の卒研発表会に向けて最終確認

※公共施設にて、親子を対象としたワークショップの学外活動と子どもの絵の審査会見学を計画中。

到達目標

- ・材料をもとにした造形及び創造活動を楽しみ豊かな発想をするなどして、自らの造形表現を高めることができる。
- ・幼児・児童の絵画造形の発達段階を理解し、教育・保育者としての造形活動を指導・支援する為の知識や、基礎となる技能を習得し、子どもの豊かな創造力を育む実践力を養うことができる。
- ・研究テーマを設定して、継続的に研究計画を遂行する能力を養うことができる。

履修上の注意

課題に対して主体的な取り組みを心掛け、地道な努力の積み重ねを目指す。手先の器用さよりもむしろ時間をかけた丁寧さと根気強さが求められる。教員・学生同士との対話的で深い学びを目指す。

予習・復習

造形の実践力を高めるために、公立美術館・公共施設等を利用したワークショップなどの参加を検討中。ファシリテーター（促進者）として子どもとの関わりを持つ場面に、積極的に参加することを望む。

評価方法

課題に取り組む態度、製作した作品の質と量（50%）、ゼミ単位でのワークショップ・ボランティア活動（30%）、製作レポートの内容（20%）により評価する。

テキスト

- ・教科書名：保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」
- ・著 者 名：梅澤実・森本昭宏編著
- ・出版社名：創成社
- ・出 版 年（ISBN）：2020

授業概要

発達心理学や教育心理学に関する研究テーマについて、卒業論文を執筆する。
各自の研究テーマに関する先行研究を読み込み、先行研究の成果と課題を明らかにする。それを踏まえて、観察や調査を行い、データ収集をする。収集したデータを分析し、結果と考察をまとめる。また、自分の研究を他者に向けて発表し合い、建設的な討議を行う。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	卒業論文の向けての構想の確認①	第 17 回	調査の実施・結果の確認・討議①
第 3 回	卒業論文の向けての構想の確認②	第 18 回	調査の実施・結果の確認・討議②
第 4 回	卒業論文の向けての構想の確認③	第 19 回	調査の実施・結果の確認・討議③
第 5 回	心理学研究の手法について①	第 20 回	調査の実施・結果の確認・討議④
第 6 回	心理学研究の手法について②	第 21 回	調査の実施・結果の確認・討議⑤
第 7 回	心理学研究の手法について③	第 22 回	卒業論文の執筆と添削①
第 8 回	先行研究の検討・発表①	第 23 回	卒業論文の執筆と添削②
第 9 回	先行研究の検討・発表②	第 24 回	卒業論文の執筆と添削③
第 10 回	先行研究の検討・発表③	第 25 回	卒業論文の執筆と添削④
第 11 回	先行研究の検討・発表④	第 26 回	卒業論文の執筆と添削⑤
第 12 回	先行研究の検討・発表⑤	第 27 回	卒業論文の執筆と添削⑥
第 13 回	データ収集計画の確認①	第 28 回	卒業論文の執筆と添削⑦
第 14 回	データ収集計画の確認②	第 29 回	卒論発表会の予行演習①
第 15 回	データ収集計画の確認③	第 30 回	卒論発表会の予行演習②
		第 31 回	卒論発表会

到達目標

- ・自らの研究テーマに関する先行研究を読み込み、先行研究の成果と課題を明らかにすることができる。
- ・発達や教育に関わるテーマを追求するための、適切なデータ収集を行うことができる。
- ・自ら関心をもった研究テーマについて、卒業論文を作成することができる。
- ・自らの研究内容について、他者に適切に説明できる。

履修上の注意

- ・このゼミでは下記を重視するため、やむを得ない理由以外での遅刻、欠席は認めない。
- ・主体的かつ粘り強く課題に取り組む姿勢を求める。
- ・他者の発表や意見を聞いたり、感想や意見を述べたりすることでお互いに学び合う姿勢を求める。
- ・外部施設の見学を行う場合がある。

予習・復習

先行研究の調査と検討、卒業論文に関する調査の計画と実施、卒業論文の執筆、発表の準備など、各自の執筆の進行状況に合わせて指示する。

評価方法

授業への参加態度（20%）、発表（20%）、卒業論文（60%）によって、総合的に判断する。

テキスト

各自の研究テーマに応じて、指示する。

授業概要

各自の研究テーマについて、心理学的手法に則って卒業論文を執筆する。
卒業論文の作成をとおして、研究テーマに関する理解を深めるとともに、資料を読み込む力、問いを立てて検証する力、データ収集・分析をする力、結果をもとに考察する力を身につける。また、自分の研究について他者に向けて発表し、討議を行って学び合えるよう指導する。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	卒業論文研究計画に関する討議①	第 17 回	本調査の実施と結果に関する討議①
第 3 回	卒業論文研究計画に関する討議②	第 18 回	本調査の実施と結果に関する討議②
第 4 回	文献の整理／問題と目的の確認①	第 19 回	本調査の実施と結果に関する討議③
第 5 回	文献の整理／問題と目的の確認②	第 20 回	本調査の実施と結果に関する討議④
第 6 回	文献の整理／問題と目的の確認③	第 21 回	卒業論文の執筆と討議①
第 7 回	問題と目的の発表と討議①	第 22 回	卒業論文の執筆と討議②
第 8 回	問題と目的の発表と討議②	第 23 回	卒業論文の執筆と討議③
第 9 回	問題と目的の発表と討議③	第 24 回	卒業論文の執筆と討議④
第 10 回	予備調査の実施と方法の検討①	第 25 回	卒業論文の執筆と討議⑤
第 11 回	予備調査の実施と方法の検討②	第 26 回	卒業論文の執筆と討議⑥
第 12 回	予備調査の実施と方法の検討③	第 27 回	卒業論文の執筆と討議⑦
第 13 回	中間発表と討議①	第 28 回	卒業論文の執筆と討議⑧
第 14 回	中間発表と討議②	第 29 回	卒業論文要旨作成
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	卒業論文発表会
		第 31 回	卒業論文提出

到達目標

- ・研究テーマに関する先行研究の成果と課題を明らかにして、研究目的を設定することができる。
- ・研究目的に沿って適切なデータ収集を行い、分析・考察することができる。
- ・心理学の論文形式に沿って、研究テーマに関する卒業論文を作成することができる。
- ・研究内容について、他者に向けて適切に説明ができる。

履修上の注意

- ・毎回の授業の積み重ねで論文を仕上げていくので、やむを得ない理由以外での欠席はしない。
- ・主体的に進め、粘り強く取り組む姿勢が求められる。
- ・他者の発表や意見を聴くこと、自分の意見を述べることにより、学び合うことを重視する。
- ・学外に施設見学や調査に出向く場合がある。

予習・復習

卒業論文における調査、執筆、発表の準備など、各自の進捗状況に合わせて指示をする。
資料やデータの収集、論文執筆、発表準備などのため、授業時間外での学習が必要である。

評価方法

授業・討議への取り組み（20％）、発表（20％）、卒業論文（60％）によって総合的に評価する。

テキスト

各自の研究テーマに応じて、適宜、指示をする。

授業概要

音楽分野に関わる研究テーマをもって、卒業論文を執筆する、あるいは卒業演奏を行うことを目的とする。各自の研究テーマに関する先行研究から、これまでの成果と課題を明らかにすると共に、自身の論文・研究にどのように繋げていけるかを検討していく。ゼミ内では、自身の研究についてプレゼンテーションをし、他者とのディスカッションの中で、新たな視点や考えをもって、より質の高い研究を作り上げていく。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	研究計画についての討議①	第 17 回	調査結果についての討議①
第 3 回	研究計画についての討議②	第 18 回	調査結果についての討議②
第 4 回	先行研究の検討と整理①	第 19 回	調査結果についての討議③
第 5 回	先行研究の検討と整理②	第 20 回	卒業研究・卒業論文の執筆と議論①
第 6 回	先行研究の検討と整理③	第 21 回	卒業研究・卒業論文の執筆と議論②
第 7 回	調査方法と対象の検討	第 22 回	卒業研究・卒業論文の執筆と議論③
第 8 回	調査内容の検討	第 23 回	卒業研究・卒業論文の執筆と議論④
第 9 回	調査研究①	第 24 回	卒業研究・卒業論文の執筆と議論⑤
第 10 回	調査研究②	第 25 回	卒業研究・卒業論文の執筆と議論⑥
第 11 回	調査研究③	第 26 回	卒業研究・卒業論文の執筆と議論⑦
第 12 回	調査研究④	第 27 回	卒業論文要旨の作成①
第 13 回	卒業研究・卒業論文中間発表①	第 28 回	卒業論文要旨の作成②
第 14 回	卒業研究・卒業論文中間発表②	第 29 回	卒業研究・卒業論文発表会予行演習①
第 15 回	研究計画の見直し	第 30 回	卒業研究・卒業論文発表会予行演習②
		第 31 回	卒業研究・卒業論文発表会

到達目標

- ・研究テーマに関する先行研究を丁寧かつ批判的に検討することで、自身の研究目的を設定することができる。
- ・研究の目的に対し、適切な内容と方法をもって計画的に観察及び調査を実施することができる。
- ・研究に対する自身の考えを、論理的に説明することができる。

履修上の注意

- ・卒業研究・論文執筆にあたっては、主体的かつ継続的に取り組むこと。
- ・自身の研究のみでなく、他者の研究にも関心を持ち、自分事として学び合う姿勢を求める。
- ・遅刻、欠席をしないこと。
- ・外部施設への見学、演奏に行く場合もある。

予習・復習

- ・卒業研究・論文作成における調査、執筆、発表の準備など、自主学習が重要となる。自身の考えや研究内容を熟考、整理する時間を設けること。
- ・授業内で得た知見、論文に対する修正等は速やかに自身の研究に反映し、次に繋げること。

評価方法

- ・授業への参加を含む卒業論文に取り組んだ過程（30%）、完成した卒業論文および要旨（50%）、研究発表（20%）をもとに、総合的に評価する総合的に判断する。

テキスト

- ・各自の研究テーマに応じて、指示する。

授業概要

4年間の学びの集大成として、卒業論文に取り組みます。各自で興味のあるテーマの文献や資料の検討を行い、先行研究を調べ、これまでどのような研究が行われてきたのかをまとめ、問題点や課題を見出します。そこから、自分は卒業論文として何を明らかにしたいのか、そのためにどんなことを調べなければならないのかといったことを研究計画書にまとめ、卒業論文のテーマや研究目的を設定します。文献購読や調査（アンケートやインタビュー等）をふまえ、各自で卒業論文としてまとめ執筆することとします。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	先行研究について	第17回	文献購読
第3回	先行研究について	第18回	文献購読
第4回	先行研究について	第19回	文献購読
第5回	先行研究について	第20回	卒業論文の執筆
第6回	研究計画書の作成	第21回	卒業論文の執筆
第7回	研究計画書の作成	第22回	卒業論文の執筆
第8回	調査デザインの作成	第23回	卒業論文の執筆
第9回	調査デザインの作成	第24回	卒業論文の執筆
第10回	調査の実施	第25回	卒業論文の執筆
第11回	調査の実施	第26回	卒業論文の執筆
第12回	調査の実施	第27回	卒業論文の執筆
第13回	調査の実施	第28回	卒業論文の執筆
第14回	調査のまとめ	第29回	卒業論文の執筆
第15回	調査のまとめ	第30回	まとめ
		第31回	まとめ

到達目標

- ・自分の興味のあるテーマについて、先行研究を読み込み、問題点や課題を見出すことができる。
- ・研究目的を設定し、何を明らかにするのかを明確にし、そのためにどういう調査が必要なのかといったことをまとめた研究計画書を作成することができる。
- ・研究計画書にもとづき、調査を実施することができる。
- ・実施した調査結果をふまえ、卒業論文を執筆することができる。

履修上の注意

- ・自分の興味のあるテーマを設定してもらいますが、担当教員の専門上、子ども分野にこだわる必要はないけれども、社会福祉にかかわる領域で考えてもらうことになります。

予習・復習

自分の卒業論文であるので、主体的に予習・復習に取り組んで下さい。

評価方法

授業への参加の状況（30%）、卒業論文に取り組んだ過程（30%）、完成した卒業論文（40%）をもとに、総合的に評価する

テキスト

必要があれば、授業内で資料は配布することとします。

授業概要

本演習は、人文/社会教育に関する卒業論文の執筆を目的として指導する。研究や学問とは、知の共有財産（公共財）を創り出すことである。つまり、自分だけ特定の情報について知っていても意味をなさない。誰かと共有して初めて学問知となる。自らの関心に沿って学問知を創り出すために、問いを見つけ、それを育てる作法、調査研究の作法、ゼミのメンバーと共に議論し高めていく作法、他者を説得する作法、自らの研究行為をふりかえりさらなる課題を見出す作法について体験・実践していく。最終的には卒業論文という独特な世界をつくることになるが、その過程はむしろゼミのメンバーや研究にかかわるその他の人々との協同作業である。

授業計画

第 1 回	イントロダクション：卒業論文の構成	第 16 回	調査内容の報告と共有①発表空間の構築
第 2 回	教育学研究の位置づけと目的	第 17 回	調査内容の報告と共有②研究倫理教育
第 3 回	調査研究の特質と方法①調査とデータ	第 18 回	研究方法論の修正①問いを再設定する
第 4 回	調査研究の特質と方法②問いと方法論	第 19 回	研究方法論の修正②対象と方法の検討
第 5 回	文献レビュー報告①目的と意義	第 20 回	研究方法論の修正③先行研究の再調査
第 6 回	文献レビュー報告②問いとの関連性	第 21 回	大学図書館の活用①オンライン調査
第 7 回	研究計画の作成①研究の問いと仮説	第 22 回	大学図書館の活用②他大学等の調査
第 8 回	文献レビュー報告③図式化デザイン1	第 23 回	卒業論文執筆・要旨の修正①構成の修正
第 9 回	文献レビュー報告④図式化デザイン2	第 24 回	卒業論文執筆・要旨の修正②ストーリー
第 10 回	研究計画の作成②先行研究の調査法	第 25 回	卒業論文執筆・要旨の修正③研究目的
第 11 回	文献レビュー報告⑤他の関連分野の検討	第 26 回	口頭発表・質疑応答の方法と意義
第 12 回	文献レビュー報告⑥まとめと考察の違い	第 27 回	卒業論文執筆の課題の共有①データ再整理
第 13 回	研究計画の作成③研究の意義と限界	第 28 回	卒業論文執筆の課題の共有②参考文献整理
第 14 回	卒業論文中間発表①他者の課題の共有化	第 29 回	卒業論文発表会・質疑応答①主張の作法
第 15 回	卒業論文中間発表②自己の課題の自覚化	第 30 回	卒業論文発表会・質疑応答②応答の作法
		第 31 回	合同卒業論文発表会

到達目標

- ・自ら関心をもった研究テーマについて、卒業論文を作成することができる。
- ・文献講読や他者との議論を踏まえて、教育現象や社会現象に対する調査法について概観することができる。
- ・文献報告や自らの研究テーマの発表を通して、他者と対話する作法を身に付けることができる。

履修上の注意

他者やテキストとの対話を通じて、自己の研究関心を明らかにしていきます。一人ひとりの関心や成長が異なることを前提としながら、ゼミ全体での学びや共有する時間を大切にしましょう。
なお、大学図書館や学外の施設での調査など教室外での調査の可能性も考慮に入れておいてください。

予習・復習

基本的には、卒業論文に関する調査・執筆が予習および復習となります。
授業外の時間や夏季・冬季の時間を中心に、日々少しずつでも調査・研究を進めていきましょう。

評価方法

・卒業論文・論文要旨：50% ・報告・発表：30% ・議論の作法や姿勢：20%

テキスト

＜参考文献＞
イアン・パーカー (2008).『ラディカル質的心理学——アクションリサーチ入門』ナカニシヤ出版.
楠見友輔 (2024).『アンラーニング質的研究——表象の危機と生成変化』新曜社.
阿部幸大 (2024).『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社.
佐藤郁哉 (2008).『質的データ分析法——原理・方法・実践』新曜社.
ウヴェ・フェリック (2011).『新版 質的研究入門——〈人間の科学〉のための方法論』春秋社.
やまだようこ・サトウタツヤ・能智正博他 (2013).『質的心理学ハンドブック』新曜社.

授業概要

各自の興味関心に沿ったテーマについて、発達心理学や臨床発達心理学の視点から研究を行い、卒業論文を執筆する。

先行研究の成果と課題を明らかにし、研究の問いを立て、心理学の研究法による調査や観察、インタビューなどを実施する。得られたデータを分析し、結果と考察をまとめ、研究の意義と今後の課題を明らかにする。他者に向けて発表し、互いの意見を交換する。

研究で得られた知見を、卒業後に保育や教育の専門職として活かすことが期待できる。

授業計画

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	研究計画の確認	第17回	本調査の実施、データの分析①
第3回	先行研究の検討①	第18回	本調査の実施、データの分析②
第4回	先行研究の検討②	第19回	本調査の実施、データの分析③
第5回	問題と目的の検討①	第20回	結果と考察①
第6回	問題と目的の検討②	第21回	結果と考察②
第7回	方法の検討①	第22回	結果と考察③
第8回	方法の検討②	第23回	卒業論文の執筆と修正①
第9回	倫理的配慮の確認	第24回	卒業論文の執筆と修正②
第10回	予備調査の実施と方法の修正①	第25回	卒業論文の執筆と修正③
第11回	予備調査の実施と方法の修正②	第26回	卒業論文の執筆と修正④
第12回	予備調査の実施と方法の修正③	第27回	卒業論文の執筆と修正⑤
第13回	中間発表会①	第28回	卒業論文要旨作成
第14回	中間発表会②	第29回	卒業論文提出
第15回	春期のまとめ	第30回	卒業論文発表会①
		第31回	卒業論文発表会②

到達目標

- ・研究テーマに関する先行研究の成果と課題を明らかにして、研究の目的を設定することができる。
- ・研究の目的に沿って適切なデータ収集を行い、結果の分析・考察をすることができる。
- ・心理学の論文形式に沿って、研究テーマに関する卒業論文を作成することができる。
- ・研究内容について他者に向けて適切に説明ができる。

履修上の注意

- ・授業では研究と論文執筆のために必須の内容を扱うため、やむを得ない理由以外での遅刻・欠席はしない。
- ・主体的に研究計画を立て、論文完成まで粘り強く取り組む姿勢が求められる。
- ・他者の発表や意見を聴いたり、感想や意見を述べたりすることで、お互いに学び合う姿勢が求められる。
- ・学外に施設見学や調査に出向く場合がある。

予習・復習

先行研究の検討、研究の準備や実施、結果の分析と考察、論文の執筆、発表の準備などのため、授業時間外での学習が必要である。各自の進捗状況に合わせて指示をする。

評価方法

授業・討論への取り組み（20%）、発表（20%）、卒業論文（60パーセント）によって総合的に評価する。

テキスト

各自の研究テーマに応じて、適宜、指示をする。